男沼小学校　地域説明会　記録

日　　時	令和３年 11 月 28 日（日）10:00～11:30	場　所	男沼小学校体育館

（内容）

発言者	発言内容
市職員	1.　開会 2.　挨拶　（教育次長） 3.　男沼小・太田小・妻沼南小の統合について 本日配布させていただいたＡ４横書きの「学校規模適正化について」の資料を使って「男沼小学校・太田小学校・妻沼南小学校の３校の統合」について説明させていただきます。 １㌻から３㌻については、以前の説明会などでも説明していますが、初めて説明会にご参加された方もいらっしゃると思いますので、改めて説明します。それでは１㌻をお願いします。 全国的な少子化の進行により、児童生徒数が減少していますが、本市においても、ほぼ全ての学校において児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでおり、この傾向は、今後も続くことが見込まれています。 小規模の学校では、 ・児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・児童生徒に目が届きやすい。 などのメリットがある一方で、 ・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなる。 ・人間関係相互の評価が固定されやすい。 などの課題も懸念されています。 こうした状況から、国からも市町村ごとに、「少子化に対応した、活力ある学校づくり」について、継続的に検討・実施していくことが求められ、本市においても「学校規模の適正化」に取り組むことになり、平成３０年１１月に「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」を策定し、この方針の中で、規模の適正化を図るための方策として「学校の統廃合」を進めることとしました。右の表をご覧ください。 基本方針では、「学校規模の基準」として、小学校ではクラス替えが可能な１学年２学級以上が望ましいこととし、「学校統廃合等の基準」を「複式学級」が見込まれる場合は直ちに検討し、また、「全学年で単学級」となることが見込まれる場合は、児童数の動向に注視しながら検討することとしました。この後、４㌻のところで詳しく説明しますが、男沼小・太田小・妻沼南小は、今後

	も「全学年で単学級」が見込まれています。 ２㌻をお願いします。 左の表に統廃合の案を記載していますが、一番上の成田小と星宮小については、冒頭の挨拶で申し上げたとおり、「熊谷市立成田星宮小学校」として計画案のとおり２０２３年、令和５年４月からの開校に向け、準備を進めています。 男沼小・太田小・妻沼南小の３校の統合は、２０２５年度、令和７年度の計画となっており、ほか、小学校では７地域、中学校では６地域の統合を計画しています。 統廃合の内容ですが、右側のとおり、統合に当たっては、規模や経過年数に関わらず、対等な関係の統合とし、新たな学校として設置します。 設置場所は、既存の学校を使用し、校地面積や校舎の建築年数などを勘案して決定し、通学方法は、元の学区に小学校がなくなる地域については、原則スクールバスの利用を想定し、中学校については、自転車通学を想定しています。 また、統合は新たな学校として設置されることになるため、学校名なども新しいものになります。学校名も含め、校歌や校章など、具体的なことについては、新校設立準備委員会を立ち上げ、学校や保護者、地域の皆さんとともに検討して決定することになります。 ３㌻をお願いします。 ３校の統合の方針案ですが、２㌻のところで説明したとおり、２０２５年度に３校を対等な関係で統合し、設置場所は、校舎が新しく、面積も広い、妻沼南小を考えています。 続いて、右側に記載してある適正化のメリットですが、 ・児童生徒を多様な考え方に触れさせることにより、集団の中でルールを学び、社会性を高めるとともに、より自らの個性や学力、体力を伸ばすことができる。 ・新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができるとともに、人間関係の固定化を回避できる。 ・児童生徒同士の人間関係や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。 など、学習生活面のメリットのほか、 ・経験、教科、特性等の面でバランスの取れた教員の配置を行うことができる。 ・ＰＴＡ活動等における保護者一人一人の負担が軽減できる。 など、学校運営の面でもメリットがあります。 ４㌻をお願いします。 上のグラフは令和３年５月１日現在の、住民基本台帳人口を基にした令和３年度から９年度までの児童数の見込です。それぞれ、左から男沼小、太田小、妻沼南小の順に並べていますが、左側の男沼小をみますと、３年度から順に、

	６８人、６２人、５１人、５０人、５０人、４３人、４１人と年々減少し、また、他の２校も同様に減少する見込となっています。 　また、左下のグラフは、統合予定の２０２５年度の児童数の見込です。左側の黒塗りは、市全体の人口減少率に基づき推計した児童数で、右側の白色が住民基本台帳人口を基にした児童数となります。 　一昨年の説明会では、この左側の推計値を使って説明していましたが、推計値よりも更に２割程度減少することとなります。 　また、右下の表は、統合予定時の３校それぞれの学年ごとの児童数の見込ですが、男沼小においては、２年生・３年生の合計及び４年生・５年生の合計がそれぞれ１６人以下となり、統合しない場合は、複式学級が２つ存在することが見込まれ、実際の児童数の減少には厳しいものがあるということがお分りいただけると思います。 　５ﾍﾟｰｼﾞをお願いします。 　次の６ﾍﾟｰｼﾞまで、保護者の皆様からいただいたご意見やご質問の抜粋となります。１の統合についての意見としては、 ・統合により切磋琢磨でき、一人一人モチベーションがあがる。 ・統合には賛成。人間関係の固定化など、解決が難しい事も改善される。 ・時代の流れに見合った最適な方法 ・子供達の事を第一に考えての統合であれば、反対はしない。 など、統合に積極的なご意見のほか、 ・地区に学校が無くなるのは大変さみしいが、子供が減っていることを考えれば、統合は仕方がない。 など、積極的ではないものの、統合には賛成というご意見がある中で、 ・少人数の方が一人一人に先生の目が行き届く。 ・バス通学が不便であるので反対。 という、ご意見もいただいています。 　続いて、２は、 ・子供達の精神的な負担や勉強への影響など、少人数から大人数になることでの学校生活での心配や不安。 ・スムーズに移行できるように、少しずつ環境を変える準備など、事前の取組案を示してほしい。 などのご意見もいただきました。 　こちらについては、統合前から子供達の交流イベントを開催したり、授業を一緒に受けたりして、子供の不安を解消し、新しい環境にスムーズに馴染めるよう進めていきます。 　また、統合後についても子供達にアンケートを行うなど、心のケアに努めて

	いきます。 続いて、３のスクールバスについてのご質問ですが、実際の運行方法、乗降場所などは、統合に向けた準備を進める中で、保護者や地域の皆さんと協議して決定することになりますが、現時点で想定している主な内容としては、男沼小・太田小の児童の登下校はスクールバスとなります。バス利用の保護者負担はありません。 また、乗車場所を複数箇所設置して、通学班で乗車場所へ集合し、午前８時くらいまでに、現妻沼南小に到着できるよう、ルートや時間を決定し、下校については、下校時間に合わせて、学年ごとに乗車して、登校時の乗車場所で降車することを想定しています。また、スクールバスによる通学となった場合でも、スクールガードや旗振り当番も含め、引き続き保護者や地域の方々の見守り等のご協力をいただきたいと考えています。 ６㌻をお願いします。 ４の体育着などの学用品についてのご質問ですが、こちらも保護者の方々に、ご協力いただき、統合に向けた準備を進める中で決定することになりますが、保護者の負担にならないように、これまで使用している体育着も使えるようにします。新しい体育着も速やかに決定して、買替え等に対応したいと考えています。 ５の統合後の学校跡地ですが、地域の活性化に資するものや、カルチャースクールや塾、子供達の遊び場として活用してほしい、とのご意見や、避難場所として小学校がどの程度残るのか、とのご質問をいただきましたが、学校の跡地活用は、統合の準備が進んでから検討組織を設置して、地域の代表の方々にご参加いただいて検討していきます。地域の皆様のご意向を伺い、可能性を調査しながら検討を進めていきます。 続いて、６のその他のご質問ですが、ＰＴＡの役員も含め、統合後のＰＴＡに係る活動等についても、保護者や先生の方々で統合に向けた準備を進める中で、これから改めて決めていくことになります。 また、学童クラブですが、現在の妻沼南児童クラブに集約します。児童館内にある現在の児童クラブで不足する場合には、新規の児童クラブの設置を検討していきたいと考えています。 以上が、ご意見・ご質問の説明となりますが、本日、配布したもう一つの資料にすべてのご意見等を掲載していますので、後でご確認いただければと思います。 まとめになりますが、小規模校には一人一人にきめ細やかな指導がしやすい

	などの小規模校の良さや、地域交流や子供達を地域で育む場など、地域コミュニティの核としての性格があることは承知しています。 　しかしながら、これから社会に向かって成長していく子供には、一定の規模の集団の中で学ばせて、これからの時代に必要な力をより身に付けさせたいという思いがあります。児童数の減少には厳しいものがあり、最終的には子供の教育環境を最優先に考えた結果、統合が必要であると考えました。 　また、保護者から反対のご意見もありますが、賛成のご意見も多くいただいています。また、スクールバスなどのご質問からも、統合までに決めるべき事項が様々あり、一定の準備期間が必要になります。子供や保護者の心配や不安を解消するためにも、統合に向けた準備を始めさせていただきます。 　地域の皆様には、これまでどおり子供達を見守り、子供達の成長にご支援とご協力をお願いします。 　最後に、統合の準備の進め方について、説明します。 　この後速やかに、太田小、妻沼南小も含め、新校設立に向けた準備委員会を立ち上げるとともに、検討する内容ごとの部会も立ち上げて、十分な時間をかけて、準備を進めていきたいと考えています。 　準備委員会には、地域やＰＴＡの代表、校長先生に入っていただきたいと考えています。また、検討部会は学校運営部会、通学部会、ＰＴＡ部会などの設置を考えています。 　それぞれの部会ごとの構成員や内容ですが、学校運営部会では、校名、校歌、校章や体育着などの学用品などについて、通学部会では、スクールバスの運行方法や乗降場所など、ＰＴＡ部会では、ＰＴＡ組織や運営、役員の選出などについて協議することになりますので、先生のほか、保護者や地域の方々にも委員となっていただきたいと考えていますので、委員の選出に当たりましては、ご協力をお願いします。 4.　質疑・応答
市民	これまでの説明で、子供達が減少しているということだが、子供達が減少していることを把握していながら、総合政策部として、この地域の子供達あるいは人口が増える施策をこれまでどのようにやってきたのか。
市職員	平成１２年度の国勢調査が熊谷市の人口のピークでした。その後、人口は減少に転じています。また、人口減少の特徴としては、大学生や大学卒業後の世代という若い世代の減少が大きいという状況があります。 　市としては、総合振興計画及び総合戦略の中で、特定の地域ということではなくて、市全体の人口減少対策を行ってきました。 　具体的には、３世代同居近居事業や新幹線通勤のための費用の一部を市が補助する事業などを実施しています。

市職員	熊谷市では「転入定住促進」、「雇用促進」、「子育てしやすいまち」を進めるために、「熊谷で暮らす」という取組で、人口減少対策を実施しています。
市民	資料４ﾍﾟｰｼﾞにあるとおり、児童数は年々減少している。今後も減っていくことが見込まれると、今回の３校の統合以降も更なる統合もありえるのか。
市職員	統合案は、資料２ﾍﾟｰｼﾞのとおりで、これ以上の統合は、現在のところ検討していません。
市民	これまでの説明会や意見交換会などで、地域の方からいろいろな意見があったと思うが、それらを受けて学校の統合の計画が変更になった点などはあるのか。 あと、今回市長が変わったが、市長が変わったことで、この学校の統合計画を検討し直す予定はあるか。
市職員	当初、スクールバスに関しては、通学距離によって対象者を限定する方向で考えていましたが、説明会等のご意見を受け、安全面や体力面などを考慮して、学校がなくなる小学校区の児童全員をスクールバスの対象とすることとしました。 また、スクールバスとして利用しない時間帯に、地域の移動手段としてバスを利用していくということも現在検討中です。 次に、市長が変わりましたが、今後も児童生徒数の減少が見込まれることから、学校の統合は必要だと考えています。 ただし、児童生徒数は今後変わる可能性もあるため、随時、計画の見直しは行います。
市民	先行している成田小・星宮小の統合について、星宮地域は、２つ自治会があるうちの１つが統合に反対だということを聞いた。そうなると地域の５０％が統合に反対ということだが、地域の意見がどのくらいまとまれば、その意見は反映されるのか。
市職員	星宮地域について反対意見が５０％だったという訳ではありません。地域全体の意見としては、保護者の意見を尊重したいということでした。その上でＰＴＡからは保護者の６割程度が統合に賛成ということだったので、統合に向けた準備を進めることとしました。
市民	クラス替えができる学校をつくるということで、今回の統合の案が示されたわけだが、具体的に統合するとどうなるのか。

市職員	現在、国は３５人学級を進めていますので、統合時は１～３年生は１クラス、４～６年生は２クラスになる見込です。
市民	そうすると統合しても２クラスにならない学年があるということか。
市職員	その見込となっています。ただ、統合して１クラスだったとしても、１学年３０人程度になりますので、一定程度の規模は確保できるものと考えています。
市民	３校で統合しても、このまま児童が減少していくと、また、すべて単学級になって、再度、統合するようなことがあるのか。
市職員	先ほど説明したとおり、その後の統合については検討していません。
市民	基本方針の中で、学校の望ましい規模というものが示されているが、教育の専門家はこれには根拠がないと言っている。 現状の児童数が少ない学校の中で、学力が追い付いていないとか、子供達の関係性が固定化して困るとか、何か具体的な問題が起きているのか。 配られた資料の中では、児童数が少ないという数字だけで具体的な問題点が見えてこない。
市職員	最初に、基本方針の中の小学校の望ましい規模（１２学級から１８学級）は、熊谷市適正規模審議会で検討した上でお示しした数字なので、法的な根拠がないというのはそのとおりです。 次に、子供達が学校生活の中で、お互いに協力したり、折り合いを付けることなどを学び、結果的に子供達の力を伸ばすという意味で、切磋琢磨が必要であると考えています。 市内の小学校で１学年２学級以上ある場合には、算数などで児童の習熟度によって更にクラスを分けて授業を行っています。この場合は学級担任以外の教員も加わって授業を行っています。 学校に配置される教員の数は、児童数に応じて決まります。学校規模が小さいと配置される教員も少なくなりますので、経験年数や専門性に偏りが生じることも考えられます。 現状の男沼小学校区の児童の学力に問題があるということではなくて、統合して適正規模となることで、男沼小学校区の児童にとって、更なる学力の向上にもつながると考えています。
市民	切磋琢磨という考え方は理解できたが、自分は学校教育においては、切磋琢磨よりも、共感する力を付けることが大切だと考えている。現状、男沼小の規模ではそういった力を付けることは難しいということなのか。

市職員	現状の学校規模で、子供達に必要な力が付けられないということではなく、適正な規模の中で学ぶことで、子供達に必要な力を更に高めることができると考えています。
市民	「保護者の皆様からの御意見等」の３ページにあるが、地域住民の意見がまとまれば、妻沼小に通学してもよいということか。
市職員	学区の考え方は資料のとおりです。児童数が減少していく中で、市としても将来的に学区の見直しというものも必要であると考えていますが、現時点で妻沼台地区を妻沼小学校区に変更するということではありません。
市民	自分の子供は、男沼小に２年通った後に統合になる。統合時は男沼小の先生の何人かは統合校に配置してもらえるのか。 また、統合前に交流事業を実施するとあるが、どのくらい実施してもらえるのか。
市職員	統合後の教員の配置については最大限配慮して、それぞれの学校の児童にとって、統合後も知っている先生がいる環境にしたいと考えています。 次に交流事業については、年間で最低２回は実施したいと考えています。内容は、学校行事だけではなくて、実際に授業を一緒に受けるということも行っていきます。 成田小と星宮小の交流事業は昨年度から実施しており、児童からは、「国語の授業で、グループになってたくさんのお友達と話し合うことが出来て楽しかった。」、「体育館で成田小の子と遊べて楽しかった。また遊びたい。」、「グループで話し合いをして成田小の子達に慣れてきた。もっと仲良しになりたい。」などの感想がありました。今後も内容を見直しながら実施したいと考えています。
市民	自分は働いているので、児童クラブのことも気になっている。統合したら、統合先の児童クラブの受入人数は増やしてもらえるのか。
市職員	現在男沼小の児童は、妻沼南児童クラブ、太田小は太田児童クラブを利用していると思いますが、統合後は妻沼南児童クラブに集約されます。その時点で、児童クラブの受入人数が不足する場合には、児童クラブを新設することを考えています。
市職員	ここで、通学について補足説明させていただきます。統合に当たり、スクールバスによる通学になりますが、スクールバスに乗車する場所までの間は徒歩になりますので、これまでと同様にスクールガードや保護者による旗振り当番のご協力をお願いいたします。

	また、バスの乗降場所については、たくさんあった方が便利だという意見もありますが、逆にたくさんあると学校に到着するまでに時間がかかるというデメリットもあります。そういったことも踏まえて、安全に乗車できる場所を今後設置する予定の通学部会で、検討していきたいと考えています。
市民	自分は、妻沼小島に住む者だが、今日説明会に参加してびっくりしたことは、こんな大事な内容の説明会なのに、参加している方が少ないということだ。説明会で意見を言っても聞いてもらえないから参加しないということなのか分からないが、どういうことなのか。 また、先ほどの質問で、星宮小地域の住民の半数以上が統合に反対しているというのは本当か。市議会で、成田小と星宮小の統合に関して若干の反対はあるが大きな反対はないと市は答弁している。これはどういったことか。 次に、「保護者の皆様からの御意見等」３ページにあるが、男沼小学校区は、妻沼小の方が近いのではないかという意見に対して、一昨年の説明会では「検討します。」という回答だったが、今回は問題があるから男沼小は妻沼南小に統合しますとの回答になっている。これまでにどのくらい検討を行ったのか。 また、保護者や地域住民の総意としてまとまらない限り、現行の学区を変更することは困難であるとのことだが、ＰＴＡ会長や保護者の方が地域の意見をまとめられるわけがない。こういう回答をするから説明会の参加者が少なくなる。もっと真剣に考えてほしい。 次に、小島小学校が休校になった際に、妻沼小島地区には１０人の児童がいて、そのうちの８人が男沼小にタクシーで通学することになった。現在、男沼小に通学しているのは２人だけになってしまった。 現在の男沼小の先生方は本当によくやってくれているのでありがたいことだが、当初、妻沼小島地区の保護者の７０％は太田市の学校に通わせたいという考えだった。しかしその考えに市は耳を貸さずに一方的に男沼小へ通学することにしてしまった。 男沼小の特に台地区の保護者は、妻沼小に行きたいという意見があるなら、希望者については、妻沼小に行けるようにする方が良いと思う。そうすれば保護者の自己責任になるので、今後保護者の協力が得られるのではないか。 こんなにも少ない参加者で男沼地区の意見が十分反映されないまま、妻沼南小に統合するということは問題だと思う。
市職員	初めに、星宮地域の半数が学校の統合に反対していたという話がありましたが、そういった事実はありません。反対の意見も一部ありましたが、最終的には保護者の意見を尊重したいということで、保護者によるアンケートでは６割以上の方が賛成という結果だったことから、統合に向けた準備を進め

	ることとしたものです。
市民	いずれにしても説明会の参加者が少ないのは問題だと思う。 男沼小の保護者が妻沼小に通いたいという意見があるので、市は真剣に検討した上で説明会を開催してほしい。そうすれば説明会の参加者はもっと多くなったはずだ。
市職員	男沼小学校区の一部を妻沼小学校区に変更することについては、これまでも検討してきました。現状、男沼小学校区でありながら妻沼小に通う場合には、現状、指定校変更が必要になりますが、この指定校変更の基準についても見直す必要があります。また、指定校変更により学校区以外の学校に通学する場合には、通学を保護者の責任において行う必要があり、その負担も大きいものであると考えています。 いずれにしても学区の見直しついては、市内全域の課題として、児童数の減少や時代背景なども考慮しながら、今後しっかりと考えていきたいと思っています。
市民	今回の学校の統合の一番の目的は何なのか。地域住民のためのものであると思う。その地域の保護者が妻沼小に通わせたいと言っているのだから、通学の負担があっても保護者の責任で妻沼小に通わせることでよいのではないか。もっと地域住民の意見をしっかり聞いて考えていかないと、この地域の人口はさらに減ってしまう。
市民	現在、妻沼小島地区からタクシーで男沼小に通っている児童がいて、統合後も一緒に新しい学校に通いたいと思っているが、現在の妻沼南小にタクシーで行くには、妻沼小を通過することになる。今後入学する児童については、妻沼小に入学する選択肢があってもよいのではないか。 あと、現在、男沼小に通っている児童の保護者については、統合に関する説明会やその内容を知ることができるが、統合時に入学するようなまだ小さいお子さんを持つ保護者には、そういった情報は周知されているのか。
市職員	まず、統合後の妻沼小島地区のタクシーによる通学については、現時点で結論は出ておりませんが、十分検討して方針を出した上で、地域の皆様に説明できるようにしたいと考えています。
市職員	次に、未就学児の保護者ですが、今回の説明会についても保護者への周知を保育園や幼稚園へ依頼しています。
市民	水害が発生した際、妻沼小島地区の住民は群馬に逃げろと言われている。

	隣の太田市は、全国的にも有名な市長で市もとても栄えている。 　一方、この地域は空き家だらけで人口減少が激しい。人口を増やす方法はいくらでもあるので、市長が変わったこともあり、ぜひしっかりとやってほしい。 　今回の統合案については児童数も減っているし、統合は進めるしかないと思っている。説明会の参加者が少ないのは、もうあきらめている部分があるのかもしれない。 　ただ、バス通学になるのは良いことだと思うので、これからも地域から意見を出して、なるべく多くの人が納得するよう進めてほしい。
市民	資料によると、２０２５年度に男沼小・太田小・妻沼南小が統合して、２０３５年度から２０４４年度の間に妻沼東中・妻沼西中が統合する案になっている。 　男沼小に続いて妻沼西中もなくなってしまうと、この地域の人口は更に減ってしまうのではないか。新しく小中一貫校を新設する考えはないのか。
市職員	学校規模適正化を考える上で、小中一貫校の設置についても視野に入れています。県内で小中一貫校を設置している自治体もありますので、先進事例を参考にしながら今後検討を行っていきます。
	5.　閉会 　本日申し上げたとおり、３校の統合に関しては、子供達の教育環境を第一に考えてのことと皆様にはご理解いただきまして、統合に向けた準備をこれから始めていきたいと考えています。 　今後につきましては、ＰＴＡ役員さんや地域の代表の皆様には、統合準備のための検討会へのご参加をお願いさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。 　また、本日いただいたご意見につきましては、今後も検討してまいります。 　統合に係る情報は、随時、皆様にお知らせしていきますので、自治会長様には、回覧等していただく際には、どうかご協力をお願いいたします。 　それでは、これにて男沼小学校の地域説明会を終了します。 　ご参加いただき、ありがとうございました。